

# ACE 人権通信 5月

人権教育・啓発通信：「エース」  
発行：阿南中学校人権教育部  
(No. 2) 2023年5月26日(金)  
文責：人権教育主事 中岡 和也

学校がスタートして一カ月以上が経ちますが、級友との生活や授業には慣れてきたでしょうか？

今月は、1・3年生で遠足、2年生で修学旅行があり、学級の仲間と絆を深める大切な機会となります。きまりをきちんと守って、思い出に残る行事にしてください。

また、5月に入り、各学年で人権学習が本格的にスタートしました。一人一人が人権課題について知り、差別解消に向けて真剣に考えることができていました。今後も、しんどい思いをしている人の気持ちを想像したり、話し合いの中で自分の意見を伝えたり、級友の意見をきちんと聞いたりできるようにしてほしいです。仲間の意見を大切にできる学級であってください。そして、人権について考えるときに大切にしてほしいことは、まず、相手のことを知ることです。そうすると相手の人権の大切さについて考えることができます。先生も差別解消に向けて、みなさんと一緒に人権問題について考えていきます。共に解消できる仲間でありましょう。



## ◇授業参観日 開催

5月1日(月)に、今年度初めての参観授業を行いました。1・3年生では、学活や道徳の授業で他者の気持ちを考えたり、仲間づくりをしたりすることが中心となっていました。意欲的に発表する姿や仲間の意見をきちんと聴く姿に感心しました。2年生では、5月27日(土)～5月29日(月)の修学旅行に向けて説明会がありました。久しぶりに沖縄県への修学旅行となるので、平和学習や文化などさまざまな面で貴重な経験をしてきてほしいです。

今後も、日々の“学ぶ機会”を大切にしてください。“学ぶ機会”こそが私たちに与えられている大切な権利です。その権利を大切に、自分自身の可能性を広げてください。



## ◇各学年人権学習スタート

5月に入り、本格的に人権学習が始まりました。1年生ではいじめについて学習をしました。何がいじめにあたるのかを考え、被害者やその家族の気持ちを想像し、いじめは様々な人を苦しめる絶対にあってはならないことだと学習しました。2・3年生では、部落史の学習で「解体新書」や「解放令」について学び、どの時代に生きた人でも差別をされたら悲しい、辛い、苦しい思いをすることが理解できていました。各学年の授業の様子を見ると一人一人が真剣に取り組み、自分なりに何ができるかを考えることができていました。グループでの話し合い活動を通して、様々な価値観にふれて、より一層差別解消に向けた仲間づくりができました。

各学年の授業の様子や生徒の感想を紹介します。

## ～第一学年 人権学習～

この「いじめ」の学習で学んだ事は死ねとか、ころすなどの人の命に関係する言葉は言わないようにしたいと思った。なんでも言い合える友達に自分はなりたいたいと思った。仲を深めてよりよい学校生活ができるように普段から気を付けたいと思った。

( 1年 福島 孝多郎 )

加害者もいじめはだめだと分かっているのになぜいじめめるのか、それはいじめだと気付いていないからだと思います。そして、それを見て一緒にいじめめる人が増え、大人数のいじめにつながる場合があります。そんないじめをなくすために相手の気持ちを自分におきかえて考えることができれば周りに流されず、いじめを止めることができると思いました。

( 1年 土居 阿蓮 )

いじめは簡単に人を傷つけ、死においやるものです。いじめている側は、気付いていないと思いますが、いじめられている側は心がつぶされるような感じだと思います。私は、きれいごとのように聞こえるかもしれませんが、どんな理由があってもいじめはだめだし、したくないです。だから、言葉遣いや行動を気を付けたいと思います。

( 1年 大鹿 美月 )

まず、一番に、いじめをする側にならないようにしたいです。相手の気持ちを考えられる人になりたいです。もし、いじめを見たときは信頼できる人に相談しようと思います。いじめは、相手が死んでしまうほど深く傷つけるということが分かりました。だから、私は相手のことを考えて、行動できるように、これからの学校生活を過ごしていきたいです。



## ～第二学年 人権学習～

差別をした人たちは、差別された人々に対して、「汚い」「けがれる」などを強く思っており、自分より下がほしいという思いもあったと思います。自分より下がほしいのは、差別にまでも至るのだなと思いました。そんなことはあってはならないと思います。

( 2年 宮崎 ころろ )

私は、今回の学習をして差別はルールをつくったり、きまりをつくったりしただけでは、なくならないということが分かりました。もっと差別に対しての理解を深めて、本当に差別はしてはいけないと思うことが大切だと思います。私も、人に対する発言や行動に気を付けていきたいです。

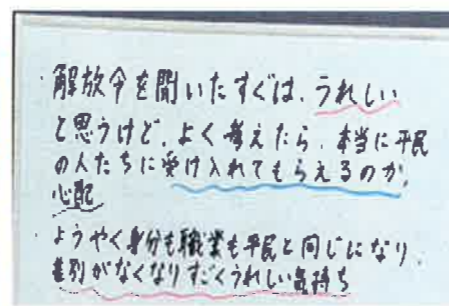
( 2年 庄野 稟子 )

今も差別やいじめが完全になくなったわけではないけど、昔は自分が思っている以上にひどい差別だったと知ってとても驚きました。もし、自分が差別をされる側だったら耐えられなくなって何のために生きていくのか分からなくなると思います。被差別部落の人々が立ち上がった勇氣は本当にすごいと思うし、自分も今差別やいじめがなくなるためにできることをしていきたいと強く思いました。相手に思いやりのある行動や言動で人に接していきたいと思います。

( 2年 萩野 里帆 )

解放令が出ても、被差別部落の人々は、差別されてるままで、しかも仕事もうまくいかなくなると、より苦しい生活をしていて、おかしいと思いました。でも、被差別部落の人々は、差別を受けながらも差別解消に向けて闘い続けてすごいと思いました。私だったらできないと思います。私は、これから差別やいじめもしないようにしたいです。

( 2年 栗飯原 千紘 )



## ～第三学年 人権学習～

差別されながらも、人の解剖をし、医学に関わってくれた人がいたからこそ今の日本があるんだと思いました。そんな人たちが、「ケガレ」のように扱われたことは、悲しいし、差別されるのはおかしいと思いました。この人たちの努力こそが今の日本に希望を与えているのだと思いました。

( 3年 久家 優希 )

今回、解体新書について習ったがやはり差別はいけないことだと思いました。「ケガレ」という見えなくて、あるかも分からないものに恐れてそれが差別につながってしまうのは残念な気持ちになりました。

( 3年 唐渡 敦也 )

昔の人々は、死や傷、血をケガレと決めつけて人と人との間で空間ができてしまっていたんだなと思った。差別されてきた人々は、どんな気持ちで一日一日を過ごしたんだろうと考えると、胸が苦しくなりました。現在でも辛い思いをしている人がいたら自分にできることをしていきたい。

( 3年 鬼塚 頌右坐 )



### ◇阿南市人権教育・啓発市民講座について

- 日 時 令和5年6月20日(火) 14:00~15:30 (13:20分受付)
  - 場 所 阿南市文化会館(夢ホール)2階研修室
  - 講 師 徳島県ハンセン病支援協会副会長 徳山 富子さん
  - 演 題 『ハンセン病問題を学んだ私たちにできること』
- ※13:50から10分程度、手話講座があります。

### 毎月第1日曜日は「家庭人権学習の日」です

阿南市では毎月第1日曜日を「家庭人権学習の日」としています。家族で、人権について話しをしてみましょう。6月は4日(日)が「家庭人権学習の日」になります。

5月のACE人権通信を読んでどんなことを感じましたか?自分自身を見つめ直したり、学級や学年でしんどい思いをしている子がいないか考えたりして、今後どのような行動がとれるかを家族の人と話をしてみましょう。